

今から資産運用を始めることが、将来の自分へのお年玉。

新年明けましておめでと〜う〜ございます。

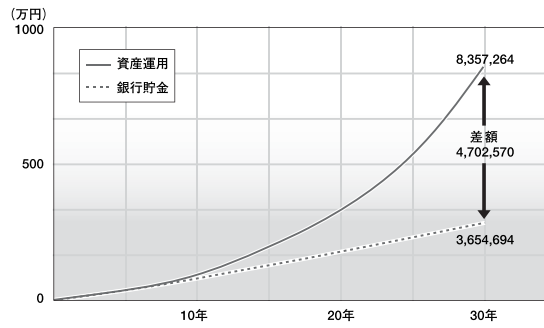
昨年10月に開講した「マネックスお金のゼミナール」。この3ヶ月間で、お金の資産運用についての基本的なお話をしてきました。ここまでは、言わば資産運用のウォーミングアップ。一年の計は元旦にあり。今年こそはじめてみてはいかがですか。

お金を貯める、という発想から、お金を育てる、という発想に頭を切り替えることで世界が大きく変わります。それを実感していただくために実際に、資産運用でお金が10年後、20年後、30年後にどのくらい大きく育っているか試算してみることしましょう。

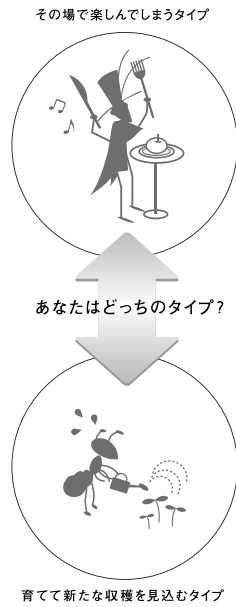
●「貯める」と「育てる」は、別世界か。
 預貯金のみで「貯める」場合と、預貯金を含むいろいろな金融商品にバランス良く資産を分散させて「育てる」場合と、将来どれくらい変わるのか、比べてみます。

例えば、毎月1万円を金利0.1%の預貯金で積み立てた場合と、年利5%で複利運用(得たリターンをそのまま再投資していくこと)した場合を比べてみると、1年後にはたった3235円の差です。ところが5年後には8万1366円、

■「貯める」と「育てる」では、どれくらい差が出るか(注)



| | 資産運用1万円 利回り5% | 預貯金1万円 金利0.1% | 差額 |
|-----|------------------|------------------|-----------|
| 1ヶ月 | 10,042 | 10,001 | 41 |
| 1年 | 123,300 | 120,065 | 3,235 |
| 5年 | 682,894 | 601,528 | 81,366 |
| 10年 | 1,559,293 | 1,206,070 | 353,223 |
| 15年 | 2,684,026 | 1,813,643 | 870,383 |
| 20年 | 4,127,463 | 2,424,261 | 1,703,202 |
| 25年 | 5,979,910 | 3,037,939 | 2,941,971 |
| 30年 | 8,357,264 | 3,654,694 | 4,702,570 |



10年後には35万3223円、20年後には170万3202円、25年後には294万1971円、そして30年後にはなんと470万2570円もの差がついてしまう計算になります。

実際にどれくらいの利回りで運用できるかは分かりませんが、5%で運用することは、過去のデータで見るとそれほど無理のある数字ではないようです。このように運用する期間が長ければ長いほど数%のリターンの差の効果は大きくなるのです。つまりは、早く始めるほどよいとも言えるわけですね。

では投資に必要な資金をどうやって作り出したらよいのでしょうか。実は、ちょっとした工夫で投資に回すお金は作れるのです。

●まず、無駄な出費を減らそう。
 例えば食費や交際費、タバコ代の節約など日常生活の中で、できることから無駄な出費を減らすことも大切です。とは言っても、過剰な節約をして、日々の生活がわびしいものになってしまつては本末転倒ですね。それよりは、年初のこの時期だからこそ、毎月給与天引きや銀行口座から自動引き落としされる、見えにくい支出を見直してみてもいいでしょう。

例えば、携帯電話の月額使用料。新たな割引サービスが続々と登場していますが、自分の現在の基本使用料のプランを見直し、サービスをフルに活用することで、月額使用料を削減できる可能性があります。自分の使用環境に合ったサービスを提供してくれる携帯電話会社に乗り換えるのも、ひとつの手です。各携帯電話会社のホームページやコールセンターで、自分に合った料金プランと割引サービスを検討できますし、

最適な携帯電話会社や料金プランを提示してくれるサイトもありますから、利用してみてもいいでしょう。

また、毎月の家計に大きな負担となっているものとして、生命保険や自動車保険、住宅ローンなどがあります。例えば、生命保険の場合、不要な保険はないかチェックするために、加入している保険の一覧表を作ってみるとよいでしょう。重複している保険内容や不要な保険が見つかるかもしれません。また、どの生命保険が自分にとって最適か分からない場合は、プロに相談してみるのもひとつの方法です。信頼できる独立系のファイナンシャルプランナーに相談すれば、特定の生命保険会社の商品を勧められる心配も少ないと思います。

住宅ローンに関しては、昨年ゼロ金利政策が解除されたことで、住宅ローンの金利が上ががり、返済の負担が大きくなることを心配されている方も多いでしょう。金利が1%上がるだけでも、借入れ金額によっては、返済額が数十万から数百万円増える場合も十分ありえます。そのため、変動金利型の場合は、固定金利型に借り換えるかどうか、また繰り上げ返済を行うか否かなど、今後の金利情勢と返済スケジュールを念頭において、今こそ見直すべき時期かもしれません。いくつかの金融機関に相談して、コスト比較するのも有益です。

今年こそ「貯める」から「育てる」へ、お金の付き合い方を変えていきませんか?今年まず、1万円からでも資産運用を始めれば、将来きっと大きなお年玉になって戻ってくるでしょう。



今年、「貯める」から「育てる」へ、お金の付き合い方を変えてみよう。
 資産運用は、長期になるほど、利回りの違いが大きな差となる。



学校では教えてくれないお金の勉強 / その14

「マネックス お金のゼミナール」は、知ってそうで知らないお金の話について、毎週1回、詳しくかつ分かりやすく解説する紙面講座です。実際の金融商品のお取引の際は、リスクや内容を確認することが大切です。次回は1月14日(予定)の新聞紙上でおいししましょう。

題字:武田双雲

(注) このグラフと表はあくまでも「貯める」と「育てる」の違いを分かりやすく説明するための試算です。資産運用の利回り5%は、実際の運用成果を保証するものではありません。また、リスクのある商品に投資する場合には投資元本を下回ることもあります。預貯金金利の0.1%は、実際の預貯金金利を表示するものではなく、また将来変動することもあります。預貯金金利は金融機関によって異なります。